

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和6年4月19日 No.6

1年生も給食がはじまりました

15日（月）から給食が始まり、翌日16日（火）は進級祝いとして「お祝い献立」が実施されました。そして、18日（木）からは1年生の給食もはじまりました。初めての給食は写真のとおりです。全国的に見ても1年生の初めての給食にはカレーが出されることが多いようで、今年もそんなニュースを見ました。本校でも子どもたちに人気のあるカレーがメインです。ちなみに、各自治体の給食センターで調理され、各校には配送されるセンター方式と違い、高浜市の学校にはそれぞれ給食室があり、そこで各校の給食を調理しています。3時間目くらいにはおいしそうな匂いが漂い食欲をそそります。そして、自校での調理であるためいつも温かい給食を食べることができます。

「初めての給食で、中には給食に苦手意識を持っている子いると思われるので、戸惑わずに安心して給食を楽しんでもらうために、スタートのメニューは家庭でも園でもよく食べているであろうカレーにした。また、配膳も自分たちで行わなければならないためできるだけ配膳、盛り付けのしやすいメニューを考えている」と大村伸恵栄養教諭は話してくれました。

この日は、練習用の器やはしを用いて給食の方法について学級ごとにシミュレーションをして、実際の給食を迎えました。そのため戸惑ったり、こぼしてしまったりということもなく、スムーズに準備していました。準備ができた子は、おいしそうな給食を前に早く食べたくて仕方がないといった様子でしたが、みんなの準備が終わるのをがんばって待っていました。その後、「いただきます」をして、初めての給食を味わっていました。子どもたちの笑顔が印象的でした。残っているご飯やカレーなど、おかわりもして、楽しく給食を始めることができたようです。



ご飯、牛乳、カレーシチュー、
ナゲット、コールスローサラダ



花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和6年4月24日 No.7

ありがとうございました

春は新しい出会いの季節ではありますが、別れの季節でもあります。「春」という漢字は、「二つの大きな日」と書きますが、出会いと別れ、この二つの日を表しているのだらうと感じます。令和5年度をもって退職・異動されました先生方をお招きし、離任式を行いました。吉浜小学校で先生方の思いや願いを聞く最後の機会になりました。ズームによる中継のため教室の様子は分かりませんでした。会場で聞いていた花束を渡す代表の子どもたちからはすすり泣く声も聞こえていました。心に残る離任式になったと感じています。

【門脇裕美子先生】



みなさん、こんにちは。3月まで集会の時にしゃべっていた先生ですね。こうやってお話しすることはなかったのでいつもより緊張しています。（押し花の四つ葉のクローバーを見せながら）突然ですがこれは何でしょう。四つ葉のクローバーですね。実は先生には特技があります。四つ葉のクローバー見つけです。吉小にも四つ葉のポイントがあるんです。それは内緒です。ヒントは新しい電信棒が建ったところ。電信棒が建ってしまったので今、四つ葉のクローバーを見つけるのは難しいかもしれません。ちょっと残念です。四つ葉のクローバーは幸運のラッキーアイテムですよ。見つける、「ラッキー」って幸せな気分になりませんか。その四つ葉のクローバー、どうしてできるのか知っていますか。実は人間に踏まれたりして傷ついたクローバーが四つ葉になることがあるんだそうです。もしかしたら私たち人間もそうなのかもしれません。誰かに勇気を与えることができるのは失敗をして傷つき、それでもがんばっている人なのかもしれません。傷ついた分だけ心の痛みがわかる人間になり、周りの人にやさしさや幸せを分け与えられる人になるのかなと思います。吉小のみなさん、学校生活でうまくいかなかったこと、友達関係で悩んだり傷ついたりすることはこれからもあると思います。でもその時の痛みを力に変えて四つ葉のクローバーのように周りにやさしさや幸せを運ぶ、そんな吉浜っ子になってくれると先生は嬉しいなと思います。先生は今度、高取小学校に異動になりました。高取小学校でまた四つ葉のクローバー見つけて、笑顔と幸せを運ぶことができる人間になれるようにがんばりたいと思います。今までありがとうございました。さようなら。

今度、高取小学校に異動になりました。高取小学校でまた四つ葉のクローバー見つけて、笑顔と幸せを運ぶことができる人間になれるようにがんばりたいと思います。今までありがとうございました。さようなら。

<転任職員>

1	門脇由美子	高取小へ
2	永田伊都子	高取小へ
3	野村 尚之	高浜中へ
4	中村 美樹	高取小へ
5	清水 充未	港小へ
6	有川 慎吾	高浜中へ
7	杉浦紗緒里	港小へ
8	吉原 大貴	港小へ
9	杉山小裕美	翼小へ
10	神谷菜里子	高浜中へ
11	福井 礼子	翼小へ
12	大竹 成信	高取小へ
13	松尾 桂一	ご退職
14	水上 愛美	ご退職
15	磯部 史織	高取小へ
16	正木 啓	高浜小へ
17	鶴田佳代子	ご退職

【永田伊都子先生】

こんにちは。昨年度、よしのめ1組の担任だった永田伊都子です。昨年度、1年間でしたが、よしのめの子たちとはレゴランドに行ったり、大根を育て、それを売ってみんなでパピヨンに買い物にいたり、たくさん楽しい思い出ができました。先生はこの1年でよしのめの子たちが本当に大好きになっています。なので今、高取小学校に行っていますが、今年の目標は高取小学校の子を去年と同じくらい吉浜小学校のよしのめの子たちと同じくらい好きになることです。この1年でよしのめの子どもたち、うちのクラスの子どもたちはいっぱいできることが増えました。きっと1年間、またたくさん成長してくれると思います。先生も自分の目標に向かってがんばろうと思っているので、よしのめの子たちもさらに大きくなって、かっこよくなった姿をぜひ見せてくださいね。1年間でしたがありがとうございました。



【野村尚之先生】



吉浜小学校のみなさん、こんにちは。野村先生です。私は2年間、吉浜小学校で仕事をしました。今の5年生と6年生を教えました。2年で替わるって正直、思わなくて、今年は緑の学校がんばるぞって思っていました。なので学校が替わると聞いたときは、「な、なんだって」という気持ちでいっぱいでした。この2年を振り返ってみると楽しいことがたくさんありました。ハチワレの話をしたり、ドッジビーを一緒にしたり、上手な鉄棒を見せてもらったり、すとぷりの話をしたり、今の5年生の子たちと一緒にやった何でもバスケット、これらは本当に楽しい思い出でした。だからこそ吉浜小学校を離れることは、「悲しい、悔しい、ビタミンC」。(笑ってくれて) ありがとうございます。私は今、高浜中学校にいます。わからないことだらけで、毎日、「猫ミーム」の「お」(*私には理解できませんでしたが、子どもたち

は笑っていましたが)みたいな顔をしています。でもそんな中で先生は吉浜小学校のあるよいことを毎日やっています。それは、「先手のあいさつ」です。この吉浜小学校のよさを高浜中学校でもどんどん使っていくので、みなさんもぜひ先手のあいさつをして吉浜小学校を元気いっぱい明るい気持ちのよい学校にしていってください。先ほども言いましたが私は高浜中学校にいます。近くにいます。なので来年、再来年、そして、その次とみなさんが高浜中学校に入学したときの君たちの成長した姿を楽しみにしています。また会いましょう。さようなら。

【清水充未先生】

こんにちは。去年1年1組の先生だった清水充未です。今は港小学校の2年生の先生になりました。去年担任していた子たちがこんなふうにならな2年生になってがんばっているのかなと思ながら毎日過ごしています。去年、クラスの子からお手紙をもらいました。そこには、「私は先生の笑った顔が大好きです。いつも笑顔でいてください」って書いてありました。すごく嬉しかったです。なので、港小学校でもいつも笑顔でいようと思て過ごしています。2年生の人たちは去年1年生の時の学級目標を覚えていますか。「にっこにこ」でしたね。みなさんもかわいい笑顔でいつも「にっこにこ」でいてほしいと思います。元気でいてください。今までありがとうございました。



【有川慎吾先生】



吉浜小学校のみなさん、こんにちは。有川慎吾です。吉浜小学校では4年間、お世話になりました。先生は高浜中学校で1年生の担任をしています。今、吉浜小学校にいる6年生と3年生のみなさんとは1年間ずつですが一緒にすてきな時間を過ごすことができました。もと4年1組、2年1組のみなさん、元気にしていますか。新しいクラスですてきな姿を見せられていますか。また、先生は生活指導の先生として長いお休みの前にはみなさんに生活の話をしました。ズームで話している時間だけなら校長先生よりも長く話していたかもしれません。3月の全校集会ではズームではなく、みなさんの顔を見て話すことができたことがとても嬉しかったです。これからもみなさんが安心、安全に生活できることを願っています。さて、最後も生活指導の先生として少し厳しいお話を贈りたいと思います。元2年1組、4年1組の人は聞いたことがある話かもしれません。学校は遊びに来る場所ではありません。遊ぶだけなら公園でもできます。学校でしかできないことを考えてみましょう。学校は楽しい場所ではないときもあります。時には上手にできなくて、問題が解けなくて苦しくて涙が出てくることもあるでしょう。それが学校です。ただし、みなさんががんばり次第で楽しめる場所になるでしょう。この漢字を見てください。下の漢字(愉しむ)は中学校3年生で習います。どちらの漢字も「たのしい」と読みますが、意味が少し違います。上の「たのしい(楽しい)」はドッジボールが楽しい、ゲームが楽しいという時に使います。下の「たのしい(愉しい)」はもっと心がすっきりした時に味わう愉しいです。分からなかったことが分かるようになって愉しい、できなかった二重跳びができるようになって愉しいという時に使います。2つの意味の違いが分かりましたか。先ほど先生は、学校はがんばり次第でたのしめる場所になると言いました。この「たのしめる」はどちらの漢字でしょうか。学校をたのしめるの「たのしむ」は下の漢字です。ぜひこれからの小学校生活、学校を愉しめるみなさんであってください。先生はみなさんが進学する高浜中学校にいます。野村先生、神谷菜里子先生も一緒です。なのでさようならは言いません。何年か後にさらにすてきなみなさんを待っています。また会いましょう。

【吉原大貴先生】

吉浜小学校のみなさん、こんにちは。先生は昨年度、6年生を担当していましたので、今、この学校に知っている人はほとんどいないかなと思います。去年は6年生を送る会、6年生のすてきなところをたくさん見つけてくれてありがとうございました。今年もきっとすてきな6年生が吉浜小学校を引っ張っていてくれると信じて、安心して新しいところでがんばっていきます。先生もがんばるのでみなさんもがんばってください。ありがとうございました。



【杉山小裕美先生】

吉浜小学校のみなさん、こんにちは。去年4年生の先生だった小裕美先生です。明るく元気っぱいみなさんに久しぶりに会えてとても嬉しいです。先生はこの吉小にいる間にたくさんの子と関わることができました。まずは日本語教室と一緒に勉強したみんな、一緒に日本語で話す練習をしたり、文章を書く練習をしたりしましたね。ハロウィンパーティーやクリスマスパーティーなどもしました。みんながにこにこして日本語を話す姿が大好きでした。みんなは2つの国の言葉を話すことができるすごい人たちです。自信をもってこれからも日本語を話して、たくさん友達をつくってくださいね。金管バンド部と一緒に練習をがんばったみんな、去年はカントリーロードをがんばりましたね。短い時間の中で本当によくがんばりました。最後の演奏、とてもすばらしかったです。サプライズも本当にありがとうございました。とてもびっくりしたし、とても嬉しかったです。みんなといっしょにつくる音楽、一緒に音楽する時間が大好きでした。みんなとつくった音楽や時



間は一生忘れません。これからも音楽を大好きでいてください。5年生のみなさん、お久しぶりです。もう5年生なんですね。高学年としてがんばっていますか。先生は今年も4年生を担当しています。昨年、みなさんと出会った頃がとても懐かしいです。どうやら翼小学校でもソーランをやるようです。みんなといっしょに創り上げた最高のソーランが懐かしいです。未来へつなげ、吉小ソーラン、先生はみんなのソーランが大好きでした。今年はそのを超えるソーランができるように翼小学校の子たちとがんばります。最後に元4年3組のみなさん、キラキラを覚えていますか。今もみんなのキラキラは増えていますか。昨年たくさん

の姿を見せてもらいました。みんなのキラキラの姿を見るのが大好きでした。たくさん元気をもらいました。毎日、学校に行くのが楽しみでした。本当にありがとう。今も先生は翼小学校でたくさんキラキラを見つけています。今年もキラキラファミリーです。みんなもキラキラな姿を増やしてすてきな学年、クラスをつくってください。大好きな吉浜小学校のみんな、これからも元気いっぱい、思いやり溢れるみんなになってください。ずっとずっと応援しています。ありがとうございました。

【神谷茉莉子先生】

吉浜小学校のみなさん、こんにちは。茉莉子先生です。先生は吉浜小学校で3年間、みなさんと一緒に過ごしました。4年生と6年生のみなさん、元気にしていますか。今年はきっと多くの人が入学するであろう高浜中学校で中学1年生のみんなと一緒にがんばっています。みなさんは新しい学年になって3週間がたちましたね。きっと今年はこんなことをがんばるぞと意気込み、目標を立て、がんばりはじめている頃ではないでしょうか。今日はそんなみなさんに先生が大切にしている言葉を紹介したいと思います。元5年2組のみなさんは覚えているかな。それは、「あせらない。でもあきらめない」という言葉です。この言葉は精神科医と言って、心のお医者さんが残した言葉です。目標に向かってがんばる、これはとてもすてきなことです。でも今後がんばる中でどうしてもうまくいわずに空回りすることや誰かと比べてあせりを感じることもあったりします。でもあせるといことはそれだけ目標に向かってがんばりたいという気持ちがあるからこそです。だからまずはそんな自分をがんばってるねと褒めてあげてください。そしてあせらず、ゆっくりでいいから自分のペースで前に進んで目標に向かってがんばってください。前向きにがんばるみなさんをいつまでも応援しています。今までありがとうございました。



【福井礼子先生】



吉浜小学校のみなさん、こんにちは。福井礼子です。去年はこの吉浜小学校で理科の先生、その前はよしのめの担任をしていました。3年で異動になり、とてもさみしい気持ちでいっぱいです。唯一心残りなのは今の6年生の子たちがいろんな薬品が見たいな、使いたいなと言ってくれて、じゃあ来年ねと言ったまま去ることはとても残念です。また、今の5年生の子は理科室の掃除を嫌な顔をせず手伝ってくれ、とても感謝しています。5年生の子たちにも理科の楽しさをもっと教えたかったなと思っています。私はこの4月から翼小学校、すぐ隣の小学校で特別支援学級の担任をしています。今まであまり走らない先生でしたが放課

は毎日、子どもたちと鬼ごっこをしてへとへの状態で過ごしています。吉浜小学校での楽しい思い出を心に留めて、翼小学校でも子どもたちによい思い出をつくってもらい、自分も楽しく過ごせたらいいなと思っています。みなさん、ありがとうございました。

【松尾桂一先生】

吉浜小学校のみなさん、こんにちは。先生は3年間、吉浜小学校でお世話になりました。1年目と2年目はよしのめ学級のみなさんと、そして、去年は1年3組の担任としてお世話になりました。みなさんの笑顔が印象に残っています。そして、元気よくあいさつをしてくれる子がたくさんいて先生も元気をもらっていました。思い出深いこの学校を去ることになり、さみしく思っています。1年3組のみなさんにはよく話しましたが、みなさんは集中できること、得意なこと、好きなこと、熱中できることはありますか。先生は子どもの頃から絵を描くことが大好きで、今もずっと書いています。みなさんもゲームが好きだ、水泳が好きだ、野球をやっている、サッカーを習っている、いろいろ好きなことがあると思います。好きなこと、熱中できることを一つでも多く見つけてほしいと思います。それが将来の夢につながっていくと思います。でも途中で大きな壁にぶつかることもあると思います。そこですぐにあきらめてしまうのではなく、その壁を乗り越える努力を忘れないでください。努力を重ねることでもっともっと好きになる、もっともっとやってみたい、上を目指したいそんな気持ちになっていくのではと思います。先生はそんな気持ちで今も絵を描き続けています。ちょっと紹介（スマートフォンの画面に映しながら）します。ワンピースのルフィ、黒板に描いたものです。下書き、そして、色着けしました。今年は辰年なので、千と千尋の神隠しの千とはくを描きました。まだまだ下手くそですが、もっとうまく描きたいと思っています。絵を描くことを続けていきたいと思っています。みなさんも好きなこと、熱中できることをどんどん見つけて、上手になってほしいと思います。短い間でしたがお世話になりました。ありがとうございました。



【大竹成信先生】



みなさん、こんにちは。「誰だろう」というコメントが流れてきそうですが、よしのめの先生でした。新3年生のみなさんとはよしのめの交流と一緒に勉強しましたね。この最後の交流の時に、新3年生のみなさんが先生のバックにいろいろメッセージを書いてくれましたね。この中でちょっと見せますね。マシューの絵とか、スプラトゥーンうまいねとか書いてくれました。この中で一つ読みますね。「よしのめの先生で大変そうだけど、よくがんばっていますね」と書かれていました。よく見てくださいね。先生の残り時間があと1分なので、スプラトゥーン3のラスト1分の曲を流しながら、ぴったり終わらせたいと思います。(曲

を流しながら)一つだけ話します。学校の先生は、がんばっていれば夢は叶う、夢を持ち続けることが大切とよく言いますが、実際、私はアナウンサーになりたかったんですね。アナウンサーってニュース読んだり、スポーツを実況したりする仕事です。でもアナウンサーにはなれなくて、3か月この仕事、よしのめで先生をすることになりました。でもそれで残念だと思ったことは一度もないです。すごく楽しかったし、ものを伝える仕事だったので本当に楽しかったです。(曲終了)少し延長しますが、最後に言いたいことは夢が叶わなかったからじゃなくてがんばってれば夢の近くのものになれるんだということです。例えば、ものを伝える仕事、よしのめのみんなどたくさんお話ができました。だからがんばってれば夢は叶わなくても夢に近いところで働くことはできるんだと思います。大谷翔平さんも言っていますが、憧れるのはやめましょうではなくて、憧れることはよいと思います。憧れることをずっと続け、目標に向かってがんばってください。

【水上愛美先生】

吉浜小学校のみなさん、こんにちは。お久しぶりです。昨年度は日本語教室の先生をしていました水上愛美です。突然ですが、みなさんは先生ってどんな仕事だと思いませんか。きっと子どもに勉強とか生活のルールとかそういうことを教える仕事って考える人が多いのではないかと思います。でも先生はこの吉浜小学校にきて、勉強よりももっと大切なものをみなさんから教えてもらいました。例えば、漢字ががんばりテストの時、難しい漢字もたくさんありましたが、何回も間違えて何回もやり直して、最初は全然書けなかった漢字がどんどん書けるようになりましたね。そんなみなさんの姿を見て、先生はがんばり続けることのよさに気付くことができました。最初はできなくてもあきらめずにがんばり続けていれば必ず成長できる。みなさんがそう教えてくれたおかげで先生も勇気を出して苦手なことにも挑戦してみようと思えるようになりました。時間がないので今日は一つのことしか話せませんが、今、聞いてくれるみなさんのおかげで毎日いろんなことに気付いたり、勇気をもらえたりしました。たくさんのことを教えてくれて本当にありがとうございました。新しいクラスでもみなさんのすてきなところを大切にして周りの友達や先生と一緒にできることをどんどん増やしてほしいと思います。1年間ありがとうございました。



【正木 啓先生】



Hallo, everyone! 吉浜小学校のみなさん、こんにちは。マスターこと正木啓先生です。私はこの吉浜小学校に昨年度の後期だけ、それも週2日、月曜日と木曜日だけお世話になりました。初めによしのめ学級のみなさん、先生方、大変お世話になりました。寒い冬に東校舎の外でお友達と過ごすことが結構楽しかったです。次に元1年生と2年生のみなさん、先生方ありがとうございました。1年生では特に3組と4組だったみなさん、ありがとうございました。2年生では特に2組と4組だったみなさんありがとうございました。それから元3年3組で相手をしてくださったみなさん、ありがとうございました。短い間に楽しいたくさん思い

い出ができました。吉浜小学校のことは決して忘れません。先生は4月から高浜小学校に勤めています。私は外国語が専門なので5年生と6年生の英語の授業をしています。また、高取小学校の5年生にも教えに行っています。近くなのでもし見かけたら気軽に声をかけてください。それではみなさん、さようなら。ありがとうございました。



花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和6年4月26日 No.8

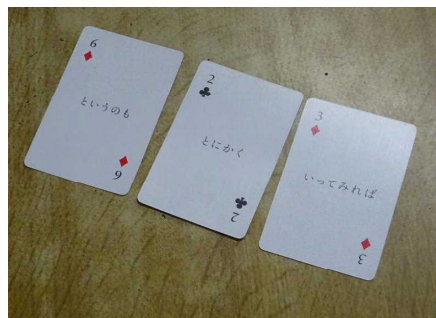
今年度の清掃活動と新たに設定したクラスタイム

長寿命化改修工事に入り、特別教室や外庭など、清掃場所が少なくなりました。そのため各清掃場所に適した人数よりもたくさんの人数で清掃を行うという状況がありました。そこで、昨年度の冬頃から学年を「清掃をするクラス」と「清掃をしないクラス」に曜日で分け、清掃場所に適した人数で責任をもって清掃するような仕組みをつくること、及び清掃をしないクラスのその時間の過ごし方を考えることを、3年生で実験してもらっていました。そして、3年生の取組の様子を見て、今年度から全校で実施することとしました。具体的には、下の囲みのように考えています。

清掃活動及びクラスタイムについて

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
清掃活動	1・2組	3・4組		1・2組	3・4組
クラスタイム	3・4組	1・2組	1～4組	3・4組	1・2組

- *一つの清掃場所を複数のクラスで担当する場合がある。例えば、廊下は自分の教室の前の廊下だけでなく、学年全体の廊下を清掃するなど。（廊下清掃がないのは水曜日のみとなる）
- *クラスタイムは他クラスが清掃活動に集中して取り組めるようにするために教室内でできる活動を行う。
- *クラスタイムの例として、「教室内の簡単な清掃や机の中やロッカーの整頓、漢字や計算の学習、話し合い活動など」を示しています。



クラスタイムでは、例えば、先日、書かせていただいた「ベースデーライン」のようなアイスブレイク的なものであったり、歌やリコーダー、話し合いの練習など、さまざまな取組が行われています。

この日は3年生のクラスで、担任が出したテーマについて、

もらったトランプに記されている3つの言葉を使って話すという取組が行われていました。中には、「いってみれば」のように難しい言葉があり、子どもたちは一瞬迷うものの逞しく話し切っていました。きっと頷きながら共感して聞いてくれる仲間の影響だと思いますが、笑顔で話している姿が印象的でした。これらの取組を共有し、学校として取り組むことも考えていけたらと思います。

テーマ：失敗した時にかけてほしい言葉

失敗した時にかけてほしい言葉は、「失敗してもどンドンやってみたらいいよ」です。というのも失敗してできるようになることがたくさんあるから。だから、とにかくやってみようと思います。いってみれば…（迷う）…そういうことかな。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和6年5月8日 No.9

ありがとうございました

授業参観、PTA総会、教育講演会、引き取り訓練と内容が盛りだくさんでしたが、ご来校いただきありがとうございました。子どもたちにとって新しい学年での初めての授業参観でした。張り切って拳手をしたり、意見を発表したりしていました。子どもたちのがんばりをご家庭でも褒めてあげてくださいね。



PTA総会に引き続き教育講演会を実施しました。ここで紹介したいと思います。



講師(青山春菜様)紹介

名古屋市在住。学習塾経営。二児の母。コーチングを用いた学習指導が人気で市内だけでなく、豊明、刈谷、みよし、北名古屋、豊橋、岐阜から160名ほどが通う。経営者や人材育成、子育てのコーチング講師としても登壇。プライベートではシングルマザーとして働きながら多感な時期の息子たちと短時間コミュニケーションで反抗期無しの良い関係を構築。

◇子どもを伸ばす！かんたん子育てコーチング

NPO法人WinWin育成協会というところでコーチングの講師をしています。2年前に協会とトヨタ自動車と共同で人材育成のプログラムを開発して、人を育てるにはコーチングがものすごく効果的でよいということ、私もお伝えしている次第であります。今日はお話をおさえて今後に向けてお話ができたと思っています。どうぞよろしくお願ひします。絵(パワーポイントの画面)を見ていただいても分かるように虹を鳥が引っ張っている、これは子どもをイメージして、それぞれのお子さんが自分に自分の色を塗って羽ばたく、そういった感じにしてみました。先ほど校長先生も森田先生もおっしゃりましたが、分かっているにもかかわらず子どもを目の前にすると感情が入ってしまって難しい。こういった中で言葉がけをしても壁を感じる、それは何の壁かという、やはりご家庭でのお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんの言葉がけ。これが大事ということをお私に今まで学んできたことを簡単にお伝えできればと思っています。私自身、コーチ

グのコーチとして5年、6年やっておりますが、子育ても二人の息子がおりますので、コーチングの講師として、そして、母親としても経験や学びも伝えたいと思います。

では自己紹介からです。青山春菜です。季節のままで4月が誕生日です。名古屋市在住、笠寺、コンサート会場が近くにあります。学習塾を経営しております。看板のないおうち塾です。コーチングを使って子どもたちを指導しております。今は豊明、刈谷、みよし、北名古屋、豊橋や岐阜、そして、神奈川からオンラインで受講している方もおります。ロコミのみでやっている本当におうち塾になります。資料には160名とあるんですが、先週、今週で10名ほど増えましたので170名ほどのお子さんが通ってきてくれています。先ほども言いましたようにNPO法人WinWin育成協会の方で人材育成や経営者向け、また、教育職の方だったり介護職の方だったり、そういう大人向けにコーチングをお伝えしております。そして、プライベートでは書いてあるように実は私、シングルマザー13年目で、そんな中、多感な息子二人、大学1年生と高校1年生の二人の息子と忙しい中、短時間でもコミュニケーションを取って濃厚な関係を築けるコーチングを使って子育てをしてまいりました。今ですとちょうど先週は高校1年生の息子と映画を見に行ってきました。大学1年生の息子は私と食事に行きたがるんですね。お母さんの行く場所はよい場所に違いない、おいしいものが食べられる、なにかよいことがあるぞということについてくるという、反抗期がほとんどない状態で過ごさせていただきました。8年間。なので、こんなふうに背景が変わっていくのもコーチングの魅力なのでお伝えできればと思いますし、また、ちょっとネガティブではあるんですけど、シングルマザーだとやはり相手がいる、別れた相手がいるんですけど、コーチングを使ってコミュニケーションを、互いに思いを伝えながら、ぶつかり合わずに。元夫とも、また元夫の両親とも実は円滑に、別れても離れてもお互いに距離を保ちながらコミュニケーションが取れているということもありますので、一度崩壊しかけてもちょっともうけんかしてダメかもというお子さんも必ずコーチング、言葉がけであったり、思いを伝えることをしていくと変化があるということを実感しております。今日はそんな話も交えながらお話しします。

ではそのために子どもの価値観、自分も大事、相手も大事というところで、子どもの価値観を大切にしていけたらと思ひ、ちょっと考えていただきたいと思っています。どうですか、お子さんの価値観って考えたことがありますか。なんか自分の子どもだと自分と同じような感覚、自分と同じことをしてくれるんじゃないかと思う方って多いんじゃないかと思うのですが、実は私もそうだったんですね。私がそう思っているのだから絶対そうだっていうふうに子育てを最初の頃はしていたんですけども、この価値観があるって考えるとちょっと見方が変わるんですね。紹介します。長男、大学1年生になったばかりです。見るからに野球少年なんです。小学校1年生のころから野球が大好きで、まだ今も野球愛が続いている。大学でも野球をしながら学びたいということで、小学校の頃の思いのまま成長しているんですけど、その息子が2月14日にLINEでくれた画像です。息子の隣に写っている方、分かる方いらっしゃいますか。野球好きの方なら分かるでしょうか。少しふくよかに見えますが荒木選手なんです。元中日の荒木選手、強かった落合竜の頃、有名でしたよね。ちょうど息子が小学校1年生の頃、中日ドラゴンズに憧れて野球を始めた、その時の荒木選手が臨時コーチできてくれて、2月14日にチョコレートの報告じゃなくて、教えてもらえたよという写真がきたのです。実は長男はずっと野球が大好きなんですけど、私は野球音痴なんです。ルールも最初分からなくて子どもがやるから引っ張られた感じで、隣の方はどなた？と聞いたくらい野球音痴の母ですけど、私が野球を分かってなくても息子は野球が好きで、その好きなものを続けている。満面の笑みからも伝わると思いますが、寝ても覚めても寝言も野球です。マンガも野球です。野球しか見ない。だから鬼滅の刃が流行ってももう一切見なくて、「どんなにマンガでも俺は人を殺す場面は見たくない」と言う完全な平和主義で、スポーツで解決すれば世の中が明るくなると思っている、そういった長男です。あと息子がもう一人いるんですけど、これが次男です。また全然雰囲気違いますよね。アプリで加工したものでないとアップは許されないという高校1年生、美容男子なんです。今時の令和男子です。小学生の頃はアイドルのたまごで、スターダストプロモーションというところに所属し、アイドルみたいに握手会だったりとか、そういうイベントをやっていたんです。美意識が高く綺麗なのが好きなんです。なのでびっくりですけど、休日はお化粧品なども私と同じものを使ってみたり、日焼け止めは毎日必ず塗ってます。逆にお兄ちゃんの野球には全く理解を示しません。汚いし、うるさいし、寒いし、暑いし、痛いしなんでやっているのか分からないって思っているんですね。でも逆に長男は、「なんであいつ髪の毛をいじってて、別に髪の毛なんていらなくない？」って、高校まで五厘(刈り)だったので暑かったら水かぶればいいじゃんみたいな昭和男子なんです。同じ母親から生まれてきてもとらえ方や大切にしているものが違うことによってはよいと思うものが全然違うんですね。なので私とはもちろん息子二人、上の子の時も受験のことは詳しくなくて、次男はバク転とかできるんですけど、私は恐怖でできないのでなんでもこんなことができるんだらうと思っていたんです。もちろん自分が大切にしているもの、学習塾もしているので小中学校の頃は勉強をがんばっていたんですね。子どもの通知表を見たときに、全然違う、数字や○の数が違う、どうするのって。私は勉強ががんばってきたから勉強しようということ言うけど、息子たちは、「じゃあママ素振りしてみるよ」って。血豆を潰して血だらけになりながら、白いグローブが真っ赤かになるまで素振りはできないし、次男に、「バク転やってみなよ」って言われてもやっぱりできないので、自分ができることを押しつけることは違うのかな。もちろん勉強は大事だけど、自分で学びながら気付いてもらうことが大切じゃないかなって。それ以来、成績のことは言わなくなったんですけど、もちろんよいに超したことはないんですけど、やはりその子自身をみてその子を育てていこうと思った時に何が大切なのかと考えてみたんですね。長男と次男は同じ男の子でも全然違う、私とも全然違う、大切にしていることが違う、性格もしゃべり方も似ているからどうしても自分と一緒にかなと思うけど、実は違うんだよ、二人をみて全然違うので、感じていただけたらと思いますし、やはりお子さんも、あれ？似てるけど違うなってところが

あると思いますので、そんなところを視点に今から簡単なワークをしていきます。大切にしているもの、考え方、とらえ方、違いをみてみたいと思います。では、同じことを言われてもどういうふうにとらえるのかを見てみたいと思います。まず長方形を書いてください。では次に○を真ん中に三つ書いてください。最後に☆を一つ、はしに書いてください。お隣と書いたものを見比べてみてください。同じことを書いてもらっても全然違いますよね。ちなみに私はこんなイメージでした。どうですか。同じ方いますか。同じことを言われてもとらえ方、感じ方によって違いが出るんですね。なので大事なことは、家族って分かってるでしょって思うし、特に近い人同士だと特になんなんですけど、分かっているから言わなくても大丈夫でしょって思ってしまうんですね。自分の子だからきつと分かってくれるというのは実は違って分かってもらえるのが大事。だから長方形はこのくらいの大きさで、○は中心に三つ書いてねとか、もしくは真ん中にお団子のように書いてねというときっていついっしょになるんです。でもちゃんと伝えないと伝えないんで、ぜひお子さんにやってみてどういうふうにとらえるのか確認してもらってもいいんですが違うんですね。これだけでも、考え方や感じ方、とらえ方が違うことが分かっていただけだと思います。ではとらえ方が違うってところでよかれと私たち親が思っていることが子どもにとってはどうでしょうか。ついミスしないように、困らないようにと、転ぶ前に座布団を敷いてしまうようなイメージで用意して、やりなさいよ、こうしなさいよ、ダメでしょって、でもそれって子どもにとってはどうでしょうか。ご自身が高校生、中学生の頃を思い出していただき、親に言われたことって聞いてきましたか。こうしなさいよっていうのを全部聞いてきたという方はまれではないでしょうか。やっぱり親の言ったことではないことっていっぱい失敗して、いっぱい泣いて、困って、そんな中で成長して今、親になれているのではないかと自分は思うんですね。ただ、親になると自分はどんなに辛くても大丈夫なんですけど、子どもが辛い思いをする、悲しい思いをする、困った思いをするというのは見たくないんです。見たくないから口うるさく言ってしまう。でも最初の頃はいいんです。はい、ママ、はい、パパって聞いてくれるから。でもだんだん年齢が上がってきて、そう小4くらいから、うるせえなあ、もういいというふうに子どもから言われ、この前まではちゃんと聞いてくれたのになんでそんなふうにするのというようにいらいらしてしまっけんかになる。これはですね、子どもがだんだん考えてることがちゃんとできてきて、自分の思いがあるからなんですよね。なのでその考えていることをちゃんと伝える、私はこう思う、ママはこう思うけど、あなたはどうかのって聞き合える仲ってのが実はすごく大事。それで、コーチングスキルでそれを簡単にやってみたいと思います。コーチングスキルは三つあります。いや逆に三つしかないんですけど。

一つ目は承認するです。認めて、褒めて、これは子育てではよく聞く言葉になりますが、やはりすごく大事な言葉で、特に反抗期でわがまま、赤ちゃん返りみたいで手を焼いて困ったなという時ほど、認めてあげてください。見てほしいんですね。なんでおまえはいつも出かけになるとそんなんだって、気を引きたいんですね。ちょっと話がそれますが、グレーと言われた、学習障がいと言われたと塾に来るんですけど、実はその子よりもその子の兄弟姉妹を認め、褒める言葉がけを3倍くらいかけてあげてください。親は大丈夫だと思う子には、あなた大丈夫だよ、こっちが大変だからこっちとついでにみてしまうのだけれど、そう思うとタイミングが合えばみてもらえるんだと思ってしまうんですね。親に見てほしいから手を焼かせる、だからちょっと困ったなと思ったりむしろ一回、大丈夫、がんばってるよねと認めてあげる言葉を意識して使ってもらいたいなと思っいます。また学校から帰ってくるとやたらイライラしていたり、嫌な言葉、きつい言葉を使ったりすることってどうですか。高学年になると増えると思いますが、そうするとこっちも、なにそれ、腹立つって思うんですが、腹立つって思う前に感情って鏡なんです。なのでご家庭で、もしきつい言葉、ひどい言葉を言ってる場合はお子さんが学校でひどい言葉、きつい言葉を言っています、鏡なので。逆に家だと素直なのになんで学校から帰ったらどうしてこんなにけんけんしてるんだろうと思うときは、学校で辛い思い、きつい思いをすることを言われたことがあって、その感情を家で鏡にして表しているのだと思ってください。うちの息子が、同居している祖母にきつい言葉を言って、祖母がしょげていることがありまして、私はその時になんでそんな言い方するのではなくて、「ねえ、ばあばがしょげてたよ。なんかあった。」「いつもそんな言い方しないじゃん。」きつと学校で嫌なことがあったのかなと思って。「ああ、実はちょっと…」というように、必ず裏に何かがあるはずなので、けんけんして嫌だなあと思うときこそ認めて聞いてあげてほしいと思います。そうすると心が柔らかくなって、悩みなど打ち明けやすくなりますので、そういうことがあったときは意識して認めてあげてください。

二つ目は聞きます。しっかりと目を見て向き合って聞くです。ただ、お子さんは忙しい時に「ねえねえ聞いて、聞いて」と言ってくるものです。「ああ今忙しいから後でね」とか、ながら聞きになってしまうので、「ちょっと今ご飯をつくっているから夕食の時に聞かせてね」というように時間をちゃんと作ることを言ってあげると、ああその時に話せばいいんだなってなりますので、ながら聞きでなんとなく聞かなくていいなっていきます。

三つ目は質問するです。5W1Hとよく言いますが、ここがすごく鍵になります。質問をする時は5W1Hの「いつ、どこで、だれが、何を、どうした」というふう聞いてあげてください。逆に、「イエス、ノー」で答えられるような聞き方は避けてください。例えば、「今日、学校楽しかった?」「うん」「給食食べた?」「うん」「宿題あるの?」「うん」「いつやるの?」「分かん」こんな感じですね。イエス、ノー会話ですね、考えずに答えさせるのは。ただ、5W1Hだと、「今日、学校どうだった?」「友達と遊んだ」「そうなんだ。今、なんで遊んでるの?」「今は外でサッカーをやってるんだよ」「へーっ、誰と?」というように、どんどんどんどん話が広がって、自分で考えて話すようになるんですね。宿題も、「おかえり。いつ宿題やる?」「遊びに行きたいから帰って風呂に入ってからにする」「そっか、そっか。じゃあそういうことで」というふうに分

言わせるのが大切です。去年、中学校3年生のお母さんがイエス、ノーで聞くんだよね、「勉強やるの？ やらないの？ どっちなの？ 習い事、行くの？ 行かないの？ どっちなの？」って。お母さんにお子さんは決められるから任せてくださいって言うんだけど、私は子どもに選択肢を与えているだけなんです。よい選択ができるように選択肢を与えて何がいけないんですかって言われるんです。その時ってお子さんは親の顔を見ているんです。どっちがよいのか。ようはイエスといった方が親がにっこりする、親の正しい答えを親の顔を見て決めるんです。「習い事に行くの？ 行かないの？」「…行かない」「はあ、行かない？ じゃあ何するの？」「いや、行く…」みたいな、行くんならさっさとやりなさいよという感じになっちゃうんです。これって誘導していることで、考えてることじゃないですよ。なので5WIHを使って質問をして考えを引き出してあげる。ついあるあるってこともあると思うんですけど、ポジティブに5WIHを使ってください。ただ、Whyを使うと、質問責めというか、責められるみたいな感じにもなるので。「なんで、なんでできないの？ なんでやらないの？」って責められている感じがしてしまうので、Whyだけは使わずに簡単にWhatとHowを使うと効果的。やはり未来に向けての質問です。「どうなるとよくなると思う？ どうしたらよいと思う？」というような質問をすることによって子どもが自分で考えて決める子どもになります。例えば、テストができなかったら。「どうする？」「勉強しよっかな」「そうか、じゃあ誰とやる？」「一人じゃ分からないからお兄ちゃんに聞こうかな、お父さんに聞こうかな」ってなります。私は塾をやっている14人講師がいます。基本的にWhatとHowで講師の方たちと話します。「今日どうだった？ 何やったの？ 何したらよいと思う？」って。そうすると、勝手に自分でこれをやった方がよいと思いますという言葉が出ますので、それを自分で考えて決めていく、そして、それを応援していくという感じです。なので私から指導するという事はないです。コーチングというのは指導ではなく、引き出す、寄り添うという、その手法なんです。イメージは青山学院の駅伝の監督がコーチングのスキルを使っているなというふうに感じています。ではこの5WIH、特にWhatとHowですね、これを使いながら伸ばすポイントが「3K」です。ちょっと古いバブルの時期の方は、3高ってご存じだと思うのですが、高身長・高学歴・高収入ではなくて、三つのKを掲げて質問力プラスいいねで三つのKを高めて行くんです。「いつ宿題始める？」「風呂の後」「いいね。すっきりした状態でできそうじゃん」というように質問した後、その答えに対していいねと言う。まず認めてあげるんですね。例えば、「テストできなかったね。どうする？ 次どうする？ どうすればいいと思う？」「勉強する」「勉強いいね。大事だよ。じゃあ1日何分とか決めたらいいんじゃない？」っていうように自分から何分やるって決めてもらう、そして、「30分やる」「いいね」ってまずは認めてあげる。本当は、「すぐに勉強しなさい、練習しなさい」ってつい行動しなさいというようなことを言ってしまうんですが、やりなさい、やりなさいって言う前に大事な行動があるんですね。これが三つのK、まず一つめのKですが、まず考えさせてください、子どもに。質問をして、「どうしたらよいと思う？ 何をやったらよいと思う？」っていうふうに考えてもらいます。その後口に口にした行動です。実際にお子さんが言うんですね、「じゃあこの時にやる、こういうふうにやってみたい」って。そうすることによって自分で考え言ったことは一歩踏み出しやすいです。この時に、「いいね、それ応援するよ」と言ってあげればよりやりやすくなります。たまになんですけど、親からするとそれは違うんじゃないのかってことがあるんですけど、まず、「いいね」って言ってあげます。よくあるのはテストですね。テストができなかった。国語のテストができなかった、「どうする？」って時に、親としては漢字が書いてないから漢字やれよって思うんですけど、「う～ん、教科書を読む」って返ってきて、「教科書かあ」って思ってもまずは「いいね、教科書を読んでみよう」それで教科書を読んでもらう。それが主体的に決めたことになります。もしそれでもテストができなかったら、「ねえ教科書読んだけどなかなか難しかったね。次はどうする？」「漢字書こうかな」自分で決めてやっていくと自信になります。例え失敗しても、「ほらね、ママが言ったように漢字書けばよかったじゃん」って言わずに、「どうする？」って次の行動を考えさせていく。次男が昔、仮面ライダーに出たいって言った時に、すぐタレントやアイドルのたまご時代って今と違って恥ずかしがり屋でしゃべれない、それでどうか自信をつけさせたいと思って、「仮面ライダーになるのはどうしたらいいと思う？」親としては、私の期待は友達の前で話すとか、文章を書いてみんなの前で発表するとか、手を挙げるとか言ってくれるかなあと思ったんですが、「ロングードバク転をやる」「ロングードバク転？」仮面ライダーに求められる技で、側転からバク転をやる技なんですけど、それをやるって言うんです。すごい遠回りですけど、「いいね、まずやってみよう」って、そして半年後にロングードバク転ができるようになったんですけど、次どうするって聞いたらバク宙やるって。また1年かけてバク宙もできるようになったんですけど、自分で決めたことは自分でやろうとしていきますので、ぜひ考え、口に出して行動できるように、そして、いいねと見守ってあげるとよりやる気が出ますので。「ちゃんとやるか見てからね、ちゃんとかけるか見てるよ」ってやるよこれは見張るになってしまうの。もう大きくなったから自分で決めて自分でやって。これは放置になってしまいます。なので決めたことを見守りながらできたというタイミングで「いいね」って言う。親御さんの言葉が一番なので、先生よりも親御さんの方が近いので、「できたじゃん、がんばったね」って伝えてあげることが大切です。そうすることで自信が繋がっていきます。なので私たちの言葉がけがすごく大切になってきます。励ましたり褒めたりというのはよく言われるんですけど、でもどこかで壁にぶつかります。うまいこといかないんです。特に高学年でなかなかかまく育たない。「いつも褒めてくれるからそれでいいんじゃない」「はい、はい、どうせそうやっていつも言ってるだけで、どうせ俺はできないし…」なかなか褒めてるだけ、励ましてるだけでは伝わらないんです。褒める励ますだけじゃダメなのかな、叱らなきゃダメなのかなと思って叱ろうと思うとつい感情的になってしまいます。感情的になると、怒るになるので叱るのはならないですよ。叱るといのは未来に向けてどういうふう子どもになってほしいのかを伝えることなので、怒るとの違いでやっていき

いと思います。

じゃあ、励ます、褒める前に考えさせて口に出して行動させるためには、「はひふへほの子育て」を考えてみましょう。励ますだけでも、褒めるだけでもなかなかうまくいかない、そういう時が必ずありますので、親の腕の見せ所ですが、まず広い視野を見せてあげてください。人と比べずに、「どういうふうによったらよくなると思う？ どういうふうにしたらよいと思う？」というように、自分の見ている視野じゃなくて、「お父さんはこういうふうと思うよ、お母さんはこういうふうで考えるんだけどあなたはどうか？」というように、自分が思っていることじゃない視点で、客観視ということですが、広い視野で見せる、そして、深く考えさせるです。じっくりとどう思うか、すぐに答えを求めるのではなくて、う～んって悩んでいても深く考えている、考えていることがものすごくよいことで、例えばお友達とけんかした時、次男がちょうど去年、集団いじめというか集団無視のようなことが部活であったんですね。その時に「どうなりたい？」「友達と仲良くしたい」「でもお友達はどうかかなあ？」「いっぱい謝っているけど全然話してくれない」「じゃあそれくらい何か嫌なことをしたかもしれない、私はいつもどっちかが100悪いとは思っていないから、きっと何か嫌なことを相手が受けているかもしれないね」「じゃあ許してくれるように謝って、もしそれが嫌がられたらもうあきらめる」「うん、あきらめる。そうね、もしダメだったら自分のしたことを振り返って、ああよくなかったな。大事な友達を失っちゃったな。次、これから出会う友達にはそういうことをしないようにしましょう」そういうことを伝えていった。「でもね、僕、その子に感謝してるんだ。その子がいてくれたから恥ずかしくて友達ができなかったけど、その子のおかげで話すことができるようになったから今は感謝してるんだ」「そうか、じゃあ、あなたにとってはよい出会いだったんだね」というように。卒業はしたんですけど、その相手の親御さんとも話をして、そのように伝えたら、「私もどこかでご縁があったらまた子ども同士が仲良くなれるとよいなあと思っています」そんなふうに言うていただきました。実は、長男同士が友達なんですね。これまた面白いんですけど、次男同士はけんかとかいうか、仲違いしてしまったんですけど、長男は長男の付き合いがあるので、長男同士は遊びに行きましょう、次男はそういうことがありましたけどどこかでご縁があったらまたお願いしますと伝えました。なので、何かが悪いわけじゃなくて、深く考えることによって次につながる、そうすることによって変化を見つけてあげてください。ちょっと変わったね、そういうふう考えられるようになったんだね、そこで褒めたり励ましてあげたりすると効果的です。なので、褒めるばかりじゃなかなか難しいなってところがあると思うんですけど、ぜひこの考えさせる、それを口に出して、そして一歩踏み出して、その時に大人が、お父さん、お母さんが、ああできたね、やれてるよ、失敗しても次にどうするかを考えようよというふうに寄り添ってあげてほしいなと思います。そして、講師をやっている痛感するのは、10年以上、塾に来てくれる生徒たちに伝えているのですが、いいね、がんばってるじゃん、こないだよりできてるじゃん、100言葉をかけてもお家の方の一つの言葉で簡単に崩れるのです。「この前より伸びたじゃん。点数、ちょっとだけ伸びたけど、でも前よりもがんばって取り組めたと思うよ」「そうだよね、次もがんばるね」と喜んで帰って行ったのに、家で、「ねえ塾に行っているのになんでこんな点数なの？ どんだけお金かけてると思ってるの？ ちゃんとやってんの？」って言われた瞬間に一気に崩れます。学校の先生や違う大人が100よい言葉をかけても親の一つの言葉にはかないません。なのでやはりご家庭で大事に、認めてあげることをしていただけたらと思います。海を知らない親の子が海の絵を描けないと言います。自分の海だけじゃなくて子どもが見る違う海を見せてあげる、そういった視点で質問をしてあげるんですね。それで子どもというのは目に見えないところがすごく大事です。よくあるのがお金をかけたんだからこうなるでしょ、何かをしたからこうなるでしょとつい思いがち、結果を求めがちなんですよね。分かりやすく言うと、口紅を買って口紅を付けたら赤くなりますよね。でも子どもって習いごとをしたらずにその場で結果って出ないんです。成果も。何年かかるか分からないので。どのタイミングで、どこから芽が出るのか、それがどんな芽なのかも分かりません。だからその芽が出るのを信じて待つ、それまでは認め続ける、根気がいるんですけど、それが大切になってきます。なので、「はひふへほ」で気の抜けるような言い方ですが、これを意識してもらってお子さんに寄り添いながら言葉がけをしてほしいと思います。子どもを伸ばすためには子どもにも価値観があります。どんなにおとなしい子どもでも大切にしているものがあります。なのでWhatとHowを使って考えさせて、そして行動を、一歩踏み出せる応援をしてあげてください。失敗する前に座布団を敷く親でなく、失敗したときに、ねえ、失敗しちゃった、どうしよう、できなかったって、お子さんが家で逃げる場所、泣ける場所、そんな場所にしてあげてください。自分でどんどん悪くならうとする子は誰もいません。なので、考えて、育てて、その子らしさを伸ばしていただけたらと思います。今日は、子どもを伸ばす、かんたん子育てコーチングをお伝えしました。どうもありがとうございました。

この講演会の後、引き取り訓練に入りました。地区によって時間に差があり、たくさん待っていた地区もありました。よりスムーズに引き取りが進むよう今後、検討していきたいと思います。

そのような中、引き取りまで体育館で待っていただいたみなさんがおられました。誰からともなく声が上がりが、椅子の片付けが始まりました。そして、その輪は大きく広がっていきました。学校や学級での子どもたちにはよく見られることですが、この日のような保護者のみなさんあってこそなんだとあらためて感じました。後ろ姿で子どもたちを導いていただけたこと、嬉しく思います。ありがとうございました。



花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和6年5月10日 No.10

野菜の苗を植えました



2年生が野菜の苗を植えました。今年度も野菜作りに詳しい地域の方、中根忠義さんにアドバイスをいただきました。子どもたちの鉢では深さが足りないため牛乳パックを切り開いてつくったもの（覆い）で深さを稼ぎました。子どもたちは、その中に土を入れ、ポットから取り出した苗を丁寧に植え、さらに土をかけていました。そして、水をやさしくかけてあげていました。大切なものを扱うようにやさしく野菜の苗に接していました。これから毎日、水やりなどのお世話が始まります。どんな野菜が育つのか、どれだけ実をつけるのか楽しみです、がんばって世話を続けることで立派な野菜ができる喜びを味わってほしいと思います。野菜の様子について、ご家庭でも話題にしてあげてくださいね。

黄色いミニトマトを植えました。鉢のお皿がうまくつけられなくて大変でした。黄色いミニトマトがたくさんできたら先生にあげたいです。
新田泰正さん

なすを植えました。葉っぱを少し虫に食べられてしまいました。大丈夫かな。大きいナスができると思います。
田中理桜さん